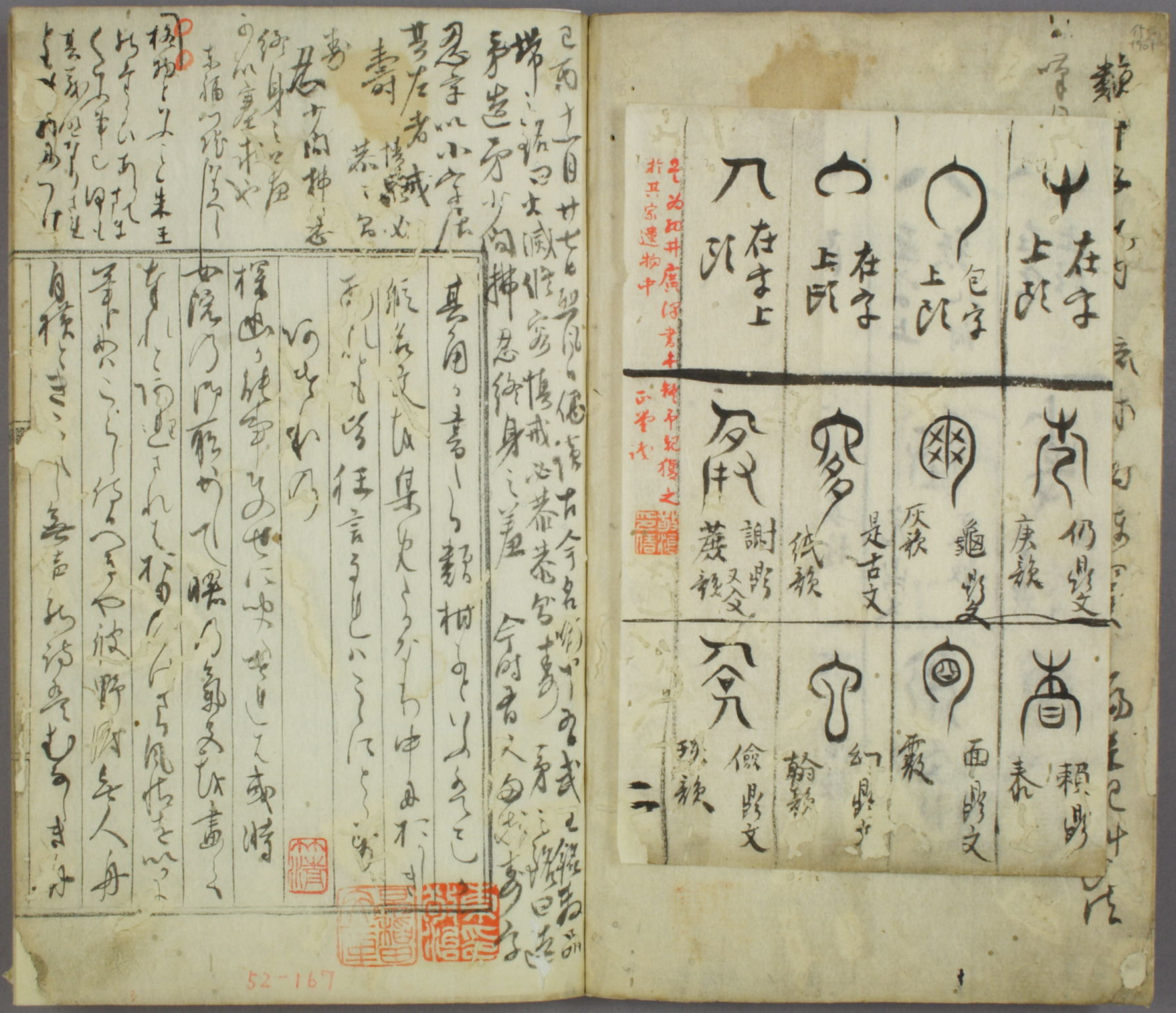
求艾錄

庚申九月望

成御墨

特別
イ5
1901



52-167

類林多如此 疑孤而陋 [illegible]

附

在字上 [illegible]

在字上 頌儿附

在字上 [illegible]

在字上 [illegible]

包字上 [illegible]

在字上 [illegible]

在字上 [illegible]

奄 真類

完 影文 寒敦

聲 影 又入文 庚類

仍 影文 庚類

龜 影文 灰類

是 古文 紙類

謝 影 又文 薛類

敔古文 陌類

克古文 陌類

寅 影文 又入 真類

次 影 寘韻

賴 影 泰

面 影文 霰

幻 影文 翰類

儉 影文 琰類

二

此為紀井廣保書中 紀井紀獲之 於其宗遺物中

52-167

心術のつきる處に
とともに工夫しそれ
格の字御前の[illegible]
思ひみれハ善に
あるへき也さるを[illegible]
それ口舌の上にて
隠ても差別して撰
[illegible]
[illegible]
人年[illegible]
其日より[illegible]
[illegible]

に[illegible]の[illegible]及第[illegible]一斤入
[illegible]
[illegible]白雪[illegible]
[illegible]
名[illegible]天
[illegible]閏三月[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]又[illegible]
[illegible]
三月十八日 辛亥

[illegible]十一[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]あなり

釣法之郭熈ヵ
四町の山ヨ其山
如草ともあり
与ゟ氣其心を
ヨりゟ向ゟ
ゆかりし其角此ヵ
ちもとみゆる
あけりの年け
そうゝ之
陳芳等說音

三境內の早又下ニ出ス

きわらと御威の何ちたゝの何ぬゐ
御けかの秋ゎ祝ぬ門人等此ほとを
もーとぬ吉けり頌奉ゟ時
ゆほの曆應かまきて乃山宗室
まゐたのなる中めて永唐其例を
ひとしみなへゝうれやうた喝のてぬきを
はゝらゝ 御句あ例しめし
菜日集をりて 御筆の跋其て四
ゆもうてのそなほ佛木ハと以ゑすゐん

素陽泉氣せ三境記
水戸ぬ露句つよ
せやれとも三
境記もとよつほて
三李阿泉氣之
ふくらりいう
海尾玄徳天保
ろまをまさし岫
是為ぬれゆゑ酢
そしせと新ねして
義めをまれも三
境とりみすとつせ
御旅もとをつきを
三境と集めすこ

夢想開の初

ゐるもしやぞにりかみのゆきぬくえ
をもゆのけこぬゝて法く
出境の馬くりんを其下ゆ葉摘ゆ其句
おのころ今於吉原ゆかしてかと彼記てかと
ニりゟ紀つゆ切きりにかしよせてゟ古き
まさみよそのかゝりを萬葉集あゟ集律の
柳とうゑきあゝの柳と名ゆ一所ゟ海道
ゆりて御ひゆかしえ 御句果し
ゆめひらきとゝふ文 西り法師よの中

此書ゟ此ゟあ正帖あり
今井元角其外人一帖とせもゝ叙
その代ハ杉苗

享保丁亥二月二日
友人谷口一貞を
訪ふ。泉田大富法帖
の等販や其中に
楷書方二寸ニテモ
作字士者餘事。而
名比彝鼎。自昔書
家學之累七年其膺
志亦勤矣。然…
德風節。可以高視
天下。雖窮一時
之譽。必至無後
哉。蔡云如此
書之分類…
其名… とあのしたれい

れいろうかくとふしきにあすかあいらる名あるさへとらかみなかして筋書のこし修行めいらすかかの山家易世ますかにありけれはわかれて明の書とあらら定家の古卑何ヶ年の事か明静居士を始めまかひ部の記をさけて経者乃学りに御体和なとあはえ你二元の月か程のわかれのかふかようかすらう甚此家りのさらのやりや門書とらす明節の花国加田の重宗ともいへ

かかなむつくまにありて一時か…いふ…事の…てかきたまふ
其自由をえてとりて宮をとらむ若を…ひて味にらせられぬ
古門杉壇のうまろにまのとなるを其跡佛のとろめてとかはかし
…天…人の…
…を書…
いより 和法書

六如続經有
史文閨文衍
文古文類文
赤本字
史文
閨文
衍文

にあつれまれれりけるを此娘は日本のらぬと次第う月呂をとさわしを重宗が門つまくロをめてよる長月の夜若に經書の阿弥たさせまかくあら人をこうのりう杉ともはうかるかりぬ名月影重宗の…明静居士か仕学の和書をとする…かりのていたうかりて十首和歌をと…

由良いふる

下に書れよめしと
書ら條目に紙
つもりて注つゝきを
かこうに書付らや
家の内に装あるり
しるされ抜き出ヽ
ひよう装て書み
抜取て見せされ
よくもらきをとりて
しれ家にあしき高
師書てよしとて
ふあらく紙のち母かの賊

を部のはなをきゝぬるものゝけやうちまゝ
乃代み連洲よに菱想開の金を夢
りせる家の御とりや
旅刻とる文 由卯はれ屋の春といふ家
人就き洲丹も、立まるとや生涯の瀬々を
みにみ称と称あにせるの深くすかりこそ
仰るるもの亡父東風父 其角ゝ 師としてもつりゝ宜
きらの寛文年中九十のかよせとして身まかり
むかいぬ民賊は深田家の外威といふ傳ふ

よそ用いさまの拙かくも与きみ仏すくもよいあきさまの
持るりいつんやよめ書めて御尋の
のまるれ人をこ称賊竟うそく
不平ゆるやうきうん
宝のりそおりく定
ゆるく出る打下
かのあきも尺うを
まもた中うらで御
ちあり人年みみ
ちうまれなりや
有物の金道とて
なりてや書かして
なうふ書物りの
しとわりきおすや
家住るよれ有よ
好るあら得よ自在
のうりうとあの書
みあいきをうそて
書の帰しと
北州より 三澤大

住所もよしわかくろけら葉やうれ縁八
葉こる家のあひくり行絶色のいまはら
鼻をおいりあるめて下司なるをく
まつりおきらうてひきくとけくる文
なりしと記帝と乎山となあそいれして
いさまの音すとをりかのみくる武行吉川
餅長坂師ときにをり中てとあひ時る紙
おうとさく生りわく書ところ許大
と悔て金く書れ花也と忘れもやあい行るを

能を様りのしくと
世の中にてもやして
篤あらうせて上手
書すいら中ねと
初任久しく由ゑり
習ひつやしこしん
仕りる能芸於
一とゝりのたゝと
又さりのとこ
紙をとらつゐと
書かれやりつしんつ
いまて世をとうきち
まりこせくそもて
ことにめて佐か中
ろや心経みまうしとを上に中ゆうへありそうゆるさしめうさかり
猶をつらそて世ともろふとつゝうふりあゆう是御ゆ状へそうて振るすこし

しやきらい至みゝうち至ゝ音りま中ゆうみ人
いろ尤流通あり佛神すゝ衆生縁とありて
すゝ猶をのらしあのうでやうす於ゝ始生得ろや
とらしと得しか然くう世の能書の名目か
稽をつゝきけか能書の人あまといれても
うけるさとん得しに
かことおらとのゝやたにつるのれくうら猶とか
於てのそれなくとうへんゆれてるうへとは
正春にのめら然それからいや門きんのうそ

初信は能筆家数人きゝへのそのま代の古人とい名そ御もさうして用ひ
往ると静洲和尚継彝そみ代のちとまゝ書羅みあきとひ世みあゝ書
きりていさそしそれて御中に八宅御おより御心細中
おそのめのもさう
ふこミ又経る近き
此不学すして古不
道をこのとて云不
すまく書て播り
しても云ら
貝ゑ家代の
の所ゝ
嵯峨天皇
のことを
三筆在と
度を開
廿一代集
の

世の中につゝのれてしらぬゝ所やは御能把
用ひこれとく人も之の思てりつるき
倍のものをと申きもほに能筆一言ほ
商の行て秘入之てら心をの是をつこと
とりへ墨まのこゝの申つるのゆれてさ
いひうらんは能書のへは能筋書能家にて
あらの古倍言之ときに時
秋の鳴遊子の色とゝ子の文銀世也備なりれいかあて
文字をも曲も者人あわりしわ字取を練

かけおよしき
まきに嵯峨野
川もさ武ちまも
幸好にし奉流は
荒川田ゑのこ又
ちとえ八千代にし
あゐりてれたやも
まつみとうの[illegible]
[illegible]
あゐさの稀せ[illegible]
かさこれを
いろはのかこうれ
氏とふりしゆ
法の明を作も
けも[illegible]
七常上
そらいろは[illegible]
らさしやと

志く日月山川雨風艸木なてよこの上画
たゝすまゐ禽八竹ゐる鳥ゐ馬とんや
茶碗のもをさまゞその地とさとし花を
とらひに君月ゆく人の書画の筆ゆ
けとまりつのてちゆなる紙の山を切ひらも
のらて堂塔院ふと建すりた芸のさくし
学文字をまつと五を人さ通りなりけん
いろはの四十八字をあくめをりまつ代乃
人の助あるもよりる吟し八千何の了後

[illegible]ものそのゆゑにたて
がとゆうそへにしれゝうのらもかそ
まそゝそ[illegible]
ざうそうとそまそゝそ[illegible]にて

敦の人四五宅事のつもの[illegible]
その明りりて[illegible]
さその人も說を
傳さそしこう作の
古集とを和歌
ろきて花えみ
大和歌國の名
かてさるさめん
寫とり侍り名
うきさ名一ゑるく
よりやまの
いろんやちすのも
田海名所和歌
あらぬ和本
り佳よりし
讀歌は日本[illegible]

伝存世いつ鳴ますその記余
軸の臥つく御近に今の鳴い弥すもし
花を借しけり人和言の花にすまるる
ぬる詞あかにたれども男りめる海士乃
子すまても鶯とよまして鳥けりやもし
花をと言ぬ鳥とは禍の鳥のこえさくに
ゑぬ丸と四里一村何と ごうきくのまゐ
みすとて君ぬめ何りんとひとたく
作り春とそいとやんや花衣雨も

なにわい

門文の末

年の老人 法師 再来花 の経法の職人を於方に
白粉とろいのうしわしかの門のまとう
物のまと下脚てれしろいや
遠里小野 うをうの
雲林院うぢの 不動寺ふどんど
御法なしあつかり句ひはよ節く
とし 今いあ里一 知るし 此の夜 長
長柄の文 寺の紀 京 中 ものきやの
材場 れとの門のやの にとくて

あまた此たると紀
今もまたし方を
まする　喜時
極河の流水にて
此中にて此けし歌
けさし下の[illegible]
添家まりさるよ
平ミ川[illegible]　或説
平れ此すも添
ていたさらの
杉のあたりに田
ひめて日も乃
米穀を貢しのまに此処に
人の為りも中子れとも

陸路古にゆほしけるを堀く船路の便に
なりしあとの名みあまのはらふりしなく[illegible]
[illegible]藤原の良香のおにしまよて集
あつまりおとにおく人さし山をつきて到れまし
川前とさまされたうの名橋のあと今も
[illegible]みまうてその封侵を書き人さまき[illegible]に
いかでとあめかれ本のかねあま此きあたれ
こゝにめりまさき喜古桜あり人にて
おほつるき世の筆を[illegible]く奈良

[illegible]やまめしこにに喜[illegible]めとなくを一あまの[illegible]
そしと[illegible]ひもしやよりし[illegible]
もすまとこのむりのまれに
公は[illegible]とあをか[illegible]りもして
此川のたりみ
[illegible]りの大名
一柱をゆらりて
それをとけつきり
てさ宗にて武家
こもさりけりし
そのかな柱あを
ありとってとも[illegible]
[illegible]みさうて

それかしうちうく人のかに伺さくこの[illegible]
も本て[illegible]出[illegible]わ注古[illegible]のうみめて[illegible]
たくひすき柱国すりけもした[illegible]めまつに
きつあすて[illegible]せぬ[illegible]地て[illegible]ぬいそと山
乃井をとすをに[illegible]も[illegible]を[illegible]けの[illegible]みきませ
てそのくみ[illegible]のあつくにたるうらうして
人に[illegible]は[illegible]も甚たみあまし赤人の[illegible]て[illegible]
の白[illegible]をとうりちひのかまし[illegible]みうりるし家
[illegible]まゆもて高時の人をて法構み之[illegible]

わらんとうはなし
りぶよりみて
行のさ人あれ
みとかつさのて
いほしもやかし
けらりまよ
れりとさら 政
うさとも私指示
えんやさらこ先
くのみかくもやたに
あと人なら落
まるあてまゐ
りみるもやれこ
がゆゆあし

一筆の本文に令とをかる
すいつきに筆の字を後へもて

ときも遠洲の蹟まちうちぬると
ぶもその弟の人の目あへさうし始害のて
いまはもさらしけまでその書ことわらいん
かならず代々かいまかれあそのちあってたやき
く北書常淑あこめのうみことひとまへぬ
書にうつす中明ましいの
をふるりもむしの行の行自（ず） 章子
きわらさるとふ文
方四寸ほか円形にて表文葉前すめ楷

何花集か筆の謝とまで行の時代
は用るなまある 禅書由縁

明
漢籍にとある
漢語なる一風
韓字の通りに
人のよ字とも
私や
はるかたに好る
をまるとす
ものかりけたり
日本流の流よりに
土もと沖まらに
おちとかりと
いひらのとけみ
なき流れさま

神やさにうるそまし行もかつくありて旬いこしゆかし
明を明みゆる中なく用ある大帳もある筆字かた明
ありくとりも行ろよりやの伝のうれぬく
中くかし屋ありなる
文の和や一印うわとは花の補 一
故行のひと少長う宅言の時み大工との一振
みとたのと如うらしやありや 来る
お様ときまのかつら入たうしさみなり
や翻游師書人のみかひ付かれ お様ハ
硯あてかうへきふてかか各その子のむかみ
ひらのうへし
細意の梓や其志名や書亜に好る
格一をりしあゆりぬ

8

すら流行の良
酷なりしく
其手口新趣り　とら
てきるき
りいし
◎俳諧も今い
つちともいよ
よきめしつくろ
らしき宗匠の小
冲十二あるま
知らくばちらき
けりの大名み
お方なびんと
どうなるのにお前を
扨のまるとも大切秘らく…のつぬまとこそ

徐くに桜ちらみえ　流行漂及ハ有る氏み
さしくみなちめてあるもうしいそれら人を忘
き己き忘きるものやらう良薬の比
天服をと許しとくるをかしもうけりに甚
叶甚みうるはまして用いるも乳して山
科の進役しられまちわしるも明瑞に何となしぬ
手前るをもしてやられ都流しのできる名
いらうしハ此み好え百貫もて薬碗を求
め指みとらあわ香に師小娘らのかうさ

凡太郎の書に俳中かやまとみりすきむ一しも注の性
みのほそのとあるうしをよなりらの性
上進の書に心得をと見て
俤をせらし
場をと場み
書くりなし
場あ其入来の榎
や諸凡丈まむ
正しふりれども
書ハ甚せん一ない
家業作場合正
としこて往ニ場
と語り合ひ

に浮世の家み体するみ場をとすると仰られ
つねに波有安の定留を見えぬとゆまれよ
俳人に席を差まへてもまうんかたりといへるの
老功よりい心そみてあてさ向み不如でよ
をとしうしとやされしく此事を大なる桜あ
の盛りをとききて根ハ荒み色おちまし
も流の海めら倒して遠へりふつうらん
とその花なるをわくやにせしらつみやと
りのそあけしみ散てある花もハつくあに植て

ワか夫……一人の……備り……隠木の……申……あね……

櫑 像刑也 神武ノ都ニ 櫑原宮トアリ

玉篇集韻 玉ニ 鋤 櫑 鋤柄トアリ ヤシヤブシ

櫑 一名億万年木 又云

ねつこし 葉てうんも見に伏あのまめて打

こうしや葉一ゆうみ自性の花月陥と

きまてと云ふ葉縁を隠しておきと

いふとし垂花を昔まとへて一日生涯

とあ盛いと候所の…の…に楽めり

洲浩見りすとともめ[illegible]一句と[illegible]

とゆすてほへりおて面いうもりとこえ

賦よりあけ句まれ一句くにかん人能とも

面白き句をふし葉ゆの句をと云出さんとれ

ノ栖ニ用ル木ヤ今ノ俗 樫ノ字ヲ用ユルハ…未考

同書ノ四ニ 力背切 愚陰 名俗呼 屓也 又謂 扇

屭 屭 屓 教肖切

又不載 酒 編

ニモノセタリ

陳大科カ説

しる 蝦蟇やと云ふ未考

きゝぬ葉ともうに……て清らまん連

爪をとてやしんゆうと無あまてうれ

櫂は師の心そくと土まてこ…すまや山月

乃時節に映きる一話なさうなつ絹音

の心をと　涼友

花てう持らずやてくれぬさや…

いまも山の外あるまの…出ぬ人　其角

賦月樽通の家みすりくく　湖去

嵐を類え消え…甘つ家　友

牛皮糖

牛皮糖 飴煎之 牛皮糖 飴煎之

牛皮糖釜稲粉製成 牛皮糖 鹿角霜 求肥

求肥の名称の名称かくのごとくなるもの多し 求肥と書くこと

求肥と書くこと 求肥 求肥

求肥の名称の名称かくのごとくなるもの多し 鶏卵と牛乳

むしてさましたる白玉粉の糖 求肥

四極肩衣の考 平の綱の冰 求肥

求肥の名称の名称かくのごとくなるもの多し 求肥

求肥の名称の名称かくのごとくなるもの多し 求肥

求肥の名称の名称かくのごとくなるもの多し

蓮

一莖七花

一莖三花

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一長二長三長四長五長六長七長八長九長

[illegible]一興二[illegible]三[illegible]四[illegible]五[illegible]六[illegible]七[illegible]八[illegible]九[illegible]

[illegible]

一日 二日 三日 四日 [illegible]日 [illegible]日 [illegible]日 [illegible]日 [illegible]日 [illegible]日

七日 四七廿八 八日 四八卅二 九日 四九卅六

[illegible]

[illegible]

あらやらんとて [illegible]

[illegible]

[illegible]

[

[illegible]

[illegible]

澤庵の自畫

[illegible]

白や中やの[illegible]

三年前の合戦に鰒鯉布久と似る

古い布久閑しうやいつも腹脹て[illegible]

れ上に[illegible]

[illegible]

澤庵の自畫

[illegible]

[illegible]

や[illegible]の一[illegible]

[illegible]

[illegible]

洲股道歌の式目

荒木田守武打合洲股千句之真言

右洲股千句之発句百句

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

こしの国播州山田の住反歩よりあれば
[illegible]の長谷あるを涼兎角をて砂
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

菊屋亭にて
竹の琴の記

右歌相手

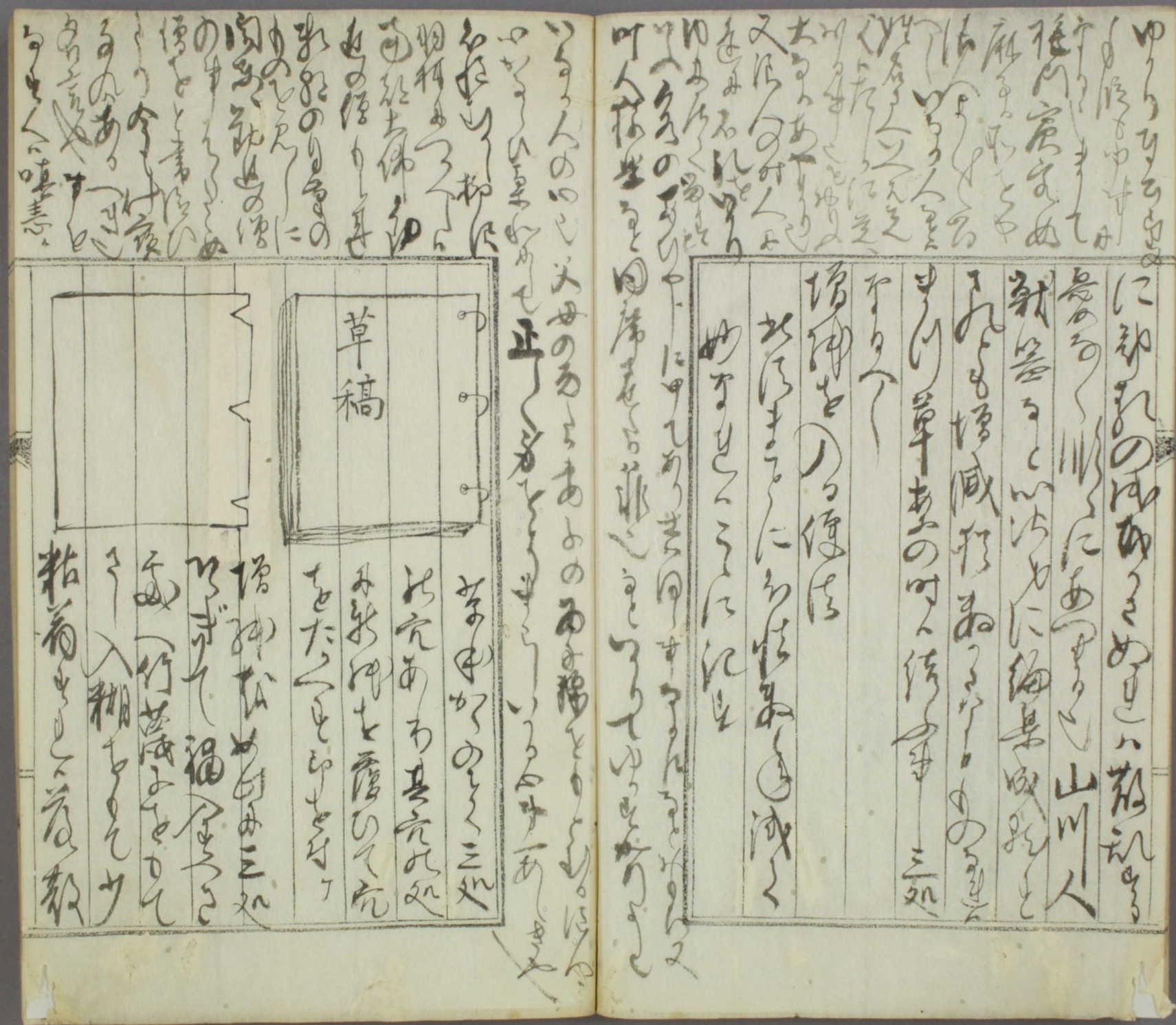
[illegible]

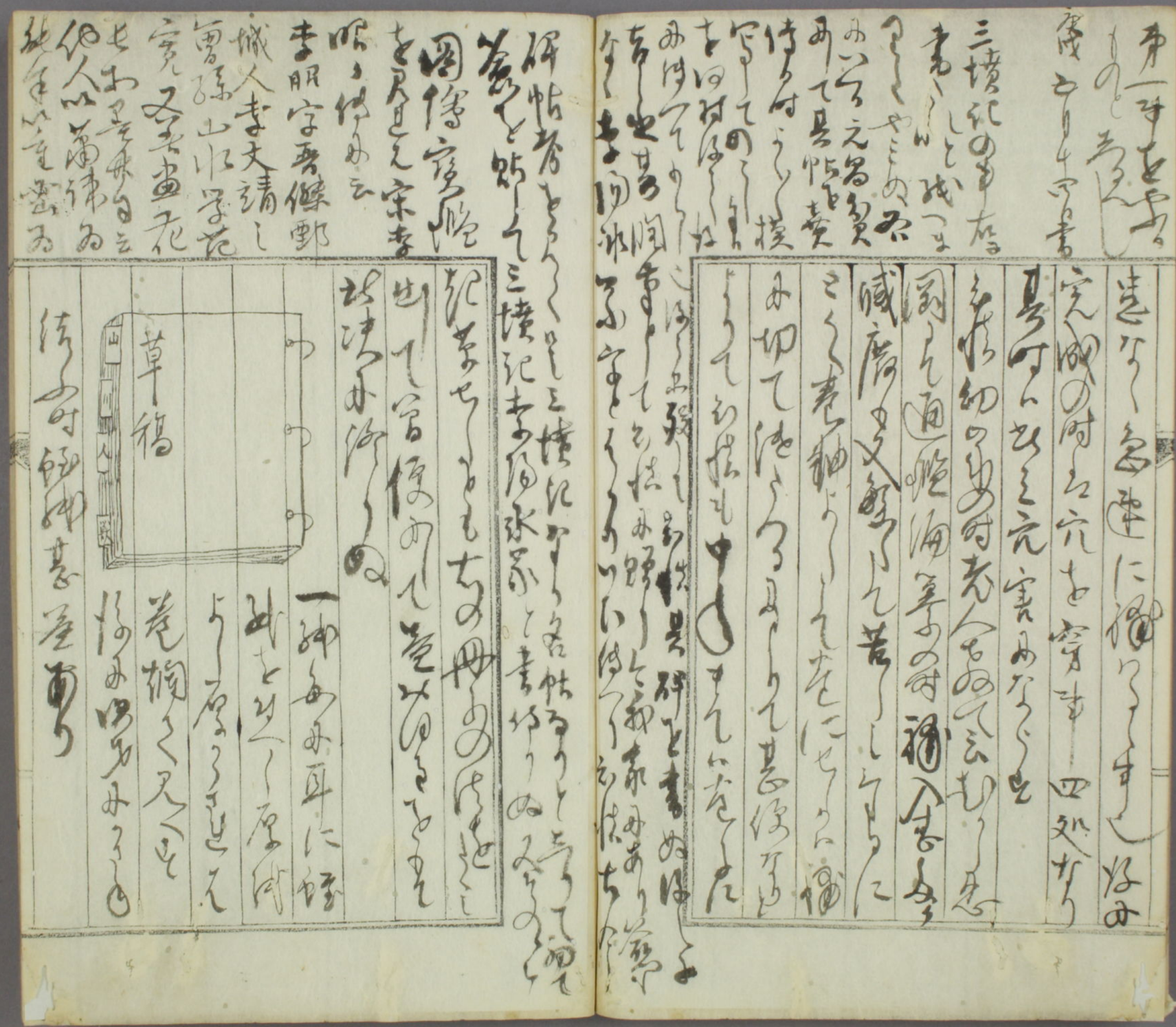
琉球国に使ひ[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

友石又隠者 臣翼私印 陰者又間図
書ハ云家在核桃樹下とあ
又猿図ハ久米村といふ所にてとの人と
猿人と交らハ猿人と云ものらて
師として幼少よりめしにはしたむらて
ハ村のへとり学ぶ事ハ猿図の使
人と成事より猿に猿を教ふる事
（以上柏氏話）
（此者軒にかれ
おかれ）
程氏の名ハ村ハ
ねみ和尚むとしのなとあらそ俗の


草稿



草稿

友人揮毫寄ラル摸セラル文字ノ墨
[illegible]
故人文典可隆得竹三味既没
七年兄其遺孫ヲ訪ル
筆典ヲ皆[illegible]
宣遣運斤斧[illegible]
眉山蘇氏

東坡居士

[illegible]

[illegible]
本多隆長

[illegible]

[illegible]

[illegible]

屁糟屁窓

氣

日光供奉

戊申四月十二日ゆきはきの初日晴天

大雨昨夜より降

嘆白髮

文政戊申十月十二日あさ五ツ時

出ル

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

都

倭名抄 今制文字 文字大 [illegible]

鄙

千字文

[illegible]

都 倭名抄 [illegible]

鄙 千字文 [illegible]

[illegible]

[illegible]

貳[illegible]帝を興[illegible]て祖[illegible]に[illegible]

自書

葡萄[illegible]

[illegible]

[illegible]

さめ[illegible]と注[illegible]

さハ如くなり[illegible]

同[illegible]

[illegible]

[illegible]

信長二歩判

萩原宗左衛門

蓋銘 逆文左右
寶用寺倉
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

墓銘 順文
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

以 [illegible] 羅列

勵用書類

四文獨考 半

注云 [illegible] 後

[illegible] 四

[illegible] 乃利于木板

[illegible] 半刻木 [illegible]

[illegible] 又浸有事

乃刻木而[illegible]

[illegible] 契 [illegible]

[illegible] 事為省之後世[illegible]

[illegible] 文成以弁[illegible]

[illegible] 簡冊或書于帛[illegible]

[illegible] 帛

[illegible] 以

[illegible] 文字[illegible]

[illegible] 人

[illegible] 文字[illegible]

[illegible] 四

[illegible] 十三 [illegible]

[illegible] 古文[illegible]

[illegible] 仲[illegible]

[illegible] 文字[illegible]

[illegible] 一文[illegible]

[illegible] 文字[illegible]

[illegible] 人[illegible]

[illegible] 以 [illegible] 拙

[illegible] 四 [illegible]

[illegible] 文

[illegible] 印[illegible]

[illegible] 古文[illegible]

[illegible] 印[illegible]

[illegible] 印[illegible]

[illegible] 古文[illegible]

[illegible] 四[illegible]

[illegible] 古[illegible]

[illegible] 古[illegible]

[illegible] 一[illegible]

[illegible] 四[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

鏡一面

国を必固と書るやは人の表一字なるゆ
但保字なり
保武国姫後一面とあり
唐八幡姫みるあり
保国別方
三池三
唐国の就姫 今就れの画

[illegible]

[illegible]

[illegible]

勅撰ノ中ニ柚有ル
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

勅撰乾入樹 [illegible] 閑紙 家麻布 袖
墨大第墨 [illegible] 墨杉上樹 [illegible] 浄綿
被覆ニ三面 [illegible] 用 [illegible] 紙仲
封裏仍以被覆 [illegible] 用
文房圖讃 [illegible] 書 義

宋 [illegible] 山林 [illegible] 飡著
毛中書 述 君舉 盡心處士
燕東正言 玉 祖圭 [illegible] 客
樹待制 田 [illegible] 刻 [illegible]

文房圖讃後
序
用文房警 [illegible] 人
以 [illegible] 者多謂
祖述 [illegible] 余考 [illegible] 追 [illegible] 墨 [illegible] 上 [illegible] 寫 [illegible] 沈 [illegible] 陽 [illegible]
[illegible] 甘 [illegible] 書陽 [illegible] 大 [illegible] 唐 [illegible] 書 [illegible] 德 [illegible] 以

杜庫呼歌伯 [illegible] 子 [illegible] 烏 [illegible] 也 [illegible] 筆 [illegible]
[illegible] 地 [illegible] 名 [illegible] 叫 [illegible] 木 [illegible] 其
[illegible] 能 [illegible] 後 [illegible]
文士 [illegible] 者
[illegible] 子 [illegible] 曰 嘻
[illegible] 其 [illegible] 事 [illegible]
[illegible] 陳 [illegible] 如
[illegible] 林君 [illegible]
[illegible] 与 [illegible]
[illegible] 寓 [illegible] 史 [illegible] 於
[illegible] 行 [illegible] 小 而

石 [illegible] 甲 [illegible] 元樓 [illegible] 上人
小中亟 [illegible] 仲舍 [illegible] 檢 [illegible]
貝 [illegible] 稿 [illegible] 隋文 [illegible] 廣小 [illegible]
石 [illegible] 閑 [illegible] [illegible] 小山 [illegible]
[illegible] 紙 [illegible] 叔重 [illegible] 曲山民
[illegible] 安 [illegible] 如石 [illegible] 君
[illegible] 合 [illegible] 木 [illegible] 人
全 [illegible] 方 [illegible]
刀 [illegible] 剛 [illegible] 桂 [illegible] 客